

■ 支 部 だ よ り ■

九州支部のうごき

平成2年11月28日・29日に、全国最大規模の環濠集落跡のある吉野ヶ里遺跡にほど近い佐賀市はぐくれ荘で、第16回九州衛生公害技術協議会が開催された。この会は九州・沖縄各県の衛生並びに環境公害に関する試験研究機関に所属する職員の学職の向上、技術の練磨及び相互の連携を行うことを趣旨として設立され、昭和51年に福岡で開催された第1回から16回を数え、毎年各県持ち回りで開催している。今回も各研究機関から166名の参加があり、総会につづき大気、水質、生物、衛生化学、細菌、ウイルスの各分科会に分れて、各研究所の抱えている技術的問題点、各研究所の連携、共同研究、研究成果等について熱心な討議が交わされた。

総会では、地元佐賀県公害センター古賀所長の開会の辞にはじまり、佐賀県衛生研究所土田所長の会長挨拶、来賓の平田佐賀県環境保健部長の心温まる歓迎の挨拶の後、議事に移り、平成元年度会務報告、平成2年度事業報告などについて了承された。大気、水質、生物分科会における概要は下記のとおりである。

1. 大気分科会

平成元年度より実施された九州沖縄地方酸性雨共同調査の全国一斉調査への対応、機器整備、研究発表等について熱心な質疑応答がなされた。特に酸性雨につ

いては、九州大学の植田教授、国立環境研究所主任研究員畑山氏をコメンテーターとしてお招きして貴重なご意見をいただき、活発な論議が展開された。

2. 水質分科会

分析手法、富栄養化、化学物質、水処理等の研究発表、各研究所の抱えている問題点、研究所間の連携について活発な意見が交換された。特にゴルフ場農薬等による地下水汚染、微量有機化学物質に係る諸問題について活発な質疑応答が交された。

3. 生物分科会

底生動物、プランクトン、珪藻類等についての研究発表、共同研究について活発な意見が交換された。特に昨年開始された九州・沖縄地区の大型底生動物ファウナ把握共同調査について活発な質疑応答がなされた。

なお、1日目の夕刻より地元佐賀県の心温まるおもてなしによる盛大な懇親会が開かれ、和やかな歓談のうちに会員一同の一層の親睦を深めた。

以上、各分科会において盛沢山の議題、研究発表があり、盛会裏に終了し、次回開催地である福岡市での再会を約し、散会した。

最後になりましたが、本協議会の開催にあたり、周到な準備とあたたかいご配慮をいただいた佐賀県衛生研究所の土田所長、佐賀県公害センターの古賀所長はじめ職員のみなさま方に厚くお礼申し上げます。

(熊本県衛生公害研究所次長 鶴田 雄二)